

ごあいさつ と 自己紹介



こんにちは、都築正道（つつき・まさみち）です。

1940年名古屋市生まれです。東海高校のときに音楽の故塩沢誠彦（あきひこ）先生に誘われて男声合唱団作りに参加して指揮をしました。名古屋大学では、学園祭でブレヒトの現代劇「肝っ玉お母とその子供たち」の音楽を担当。卒論はワーグナーの楽劇《トリスタンとイゾルデ》を主題にした「音楽におけるロマン性について」でした。大学院は関西学院大学で、学位論文（文学博士）もまた《トリスタン》研究で、「楽劇：音と言葉の美学」の題で音楽の友社から出版しました。

金城学院大学の非常勤講師を経て中部大学に奉職。学長の故山田和夫先生から中部大学管弦楽団と春日井市交響楽団を作って市民と一緒にベートーヴェンの「第九」の演奏会を開催するようにいわれてその通りにしました。この三つはいまもつづいています。

朝日新聞名古屋本社の音楽評を、長年、担当しました。

幼い頃からオペラが好きで、大学でもオペラを講じ、一般のオペラ・ファンのためのオペラ講座も開いています。熱心な会員の方から、「お話や会員とのメールのやりとりが面白いのでホームページを作りましょう」となって、このようなものができました。嬉しいです。お読みいただければ幸いです。

趣味はお風呂で蜜柑を食べることと読書とゴルフです。ゴルフはいまだに100を切るのがやっとです。優勝できない私のために、「鶴の会」を作っていただき、もう、3回優勝しました。家族は家内と茅ヶ崎と東京にいる息子二人と美人の孫娘三人です。幸せです。